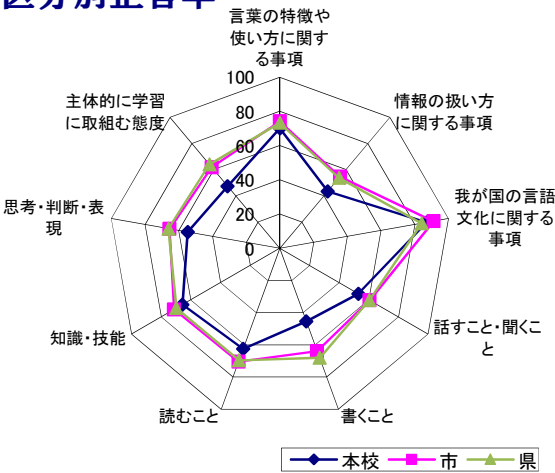


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.2	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	43.6	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	87.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	52.9	60.6	60.4
	書くこと	45.3	63.8	68.0
観点	読むこと	62.5	70.4	69.6
	知識・技能	65.7	71.3	69.9
	思考・判断・表現	54.7	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	47.5	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○「争う」を漢字で書く設問に対する正答率は63.4%で、県の平均を8.8ポイント上回っている。漢字の読み・書きに関する問いの正答率は、ほとんど県の正答率を上回った。 ●連用修飾語に関する設問の正答率は38.65%で、県の平均を6.4ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正答率がほとんど県の平均を上回ったが、漢字によっては習得率の低いものもあったので、国語辞典や漢字辞典を使用する機会を増やし、意味や由来などを含めて指導したり、家庭学習を充実させたりして、漢字習得の定着を図る。 ・文法に関しては、日頃から教科書の文章などを例に品詞を確認して読む機会を設け、定着を図るようにしたい。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●情報と情報との関係を理解し、理由や事例などを挙げる設問に対する正答率は27.7%で、県の平均を17.2ポイント下回っている。また、問題に対する無回答も20.8%となっている。	・国語だけでなく、社会や総合的な学習の時間等に、情報の扱い方について指導を行う。 ・情報をただ集めるのではなく、集めた複数の情報の関係を考えながらメモをとったり、まとめたりするよう指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○ことわざの意味を理解し、正しく使う設問に対する正答率は87.1%で、県の平均を2.9ポイント上回っている。	・国語の時間に限らず、学習・生活において、ことわざや慣用句の分からない言葉があった際には辞書を引き、調べる習慣を身に付けられるよう指導していき、更なる定着を図りたい。 ・自主学習のテーマとして、ことわざや慣用句の意味調べや文章づくりなどを提案していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問に対する正答率は83.2%で、県の平均とほぼ同等である。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことの設問では、正答率が41.6%で、県より13.3ポイント下回っている。	・話し合いにおける発言の共通点をまとめる設問の正答率が低いので、国語の授業のみならず、他教科においても改善の取組が必要である。例えば学級会の中で、あるテーマに沿った話し合いをしていく過程で、いくつかの児童の考えを取り上げまとめさせる活動を取り入れるなどして、いくつかの意見を統合することに慣れさせていきたい。
書くこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●アンケート調査の結果から読み取ったことを書く設問に対する正答率は36.6%で、県の平均を32.1ポイント下回っている。また、文章を書く設問は、無回答が25.7%となっている。	・国語の授業の中で、物語文の初発の感想を字数制限を設けて書かせたり、思ったことを文章にして書かせたりするなど、文章を書く機会を多く与えていきたい。 ・国語だけでなく、社会の学習などでも、グラフや表などから正確に数値の情報を読み取り記述する練習を行うようにする。
読むこと	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○文章を読み感じたことや考えたことを共有する設問に対する正答率は68.3%で、県の平均を2.4ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する設問に対する正答率は41.6%で、県より15.2ポイント下回っている。また、問題に対する無回答も11.9%となっている。	・物語文の学習の際は、場面ごとに、図や記号などを用いて人物の感情を表したり、物語全体の流れを表で表したりする等、登場人物の気持ちの変化や情景と場面の移り変わりとを結び付けられるようにしていきたい。